

第2分科会 中学校 学習情報指導 テーマ 「生徒の学びを支える学校図書館」

輪島市立東陽中学校 教諭 手崎 萌由

1 はじめに

輪島市では、昨年度からクロームブックが生徒一人につき一台配備され、各教科の授業や総合的な学習の時間、委員会活動など様々な場面で活用されている。情報収集が容易になった中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、生徒の自主的、自発的な学習活動の充実に向け、学校図書館はどのようにして生徒の学びを確かなものにすることができるのか、考えてみた。

2 実践の概要

(1) 国語科における取組

①新聞の活用

ア、新聞記事を使った200字作文

週1回朝読書の時間に、「天声人語」や「時鐘」などを読み、筆者の伝えたいことや、それに対する自分の考えを200字で書く。この活動は、読書の質の向上に繋がると考えている。また、時間内に記事を読み、自分の言葉で要約する必要があるため、情報を整理する力がつくと思われる。

イ、新聞スクラップブックづくり

自分の選んだ記事から、感じたことや考えたことを書いたものを校内に掲示し、いつでも読むことができるようにしている。自分とは異なる記事に目をつけた他者の思いや、他者がどのようなことを考えたのかを知ることができる。また、様々な記事が取り上げられることから、社会事象に関心をもつ機会にもなった。

②ビブリオバトル

本を深く味わい、テーマや表現の工夫を多面的に捉えて読んだり、言葉や表現方法を吟味したりするなどの力を付けることを目指して取組を進めた。

(2) 総合的な学習の時間での取組

私たちが暮らす地域には、能登の里山里海、輪島塗、祭りなど、様々な歴史や伝統が息づ

いている。しかし、地域に根差したものをインターネットで調べることは容易ではない。その際、学校図書館にある資料を活用することで、確かな情報を集めることができた。また、その過程で新たな課題が生まれたり、新しい発見をすることができたりするなど、学びが深まる様子も見られた。

(3) 生徒会・図書委員会を生かした取組

①おすすめの本紹介チャート

どんな本を借りたらよいか分からない生徒に向けて、質問に答えるだけでおすすめのジャンルを知ることができるチャートを提示した。

②本のポップ作成

先生方や委員会の生徒が1人1冊おすすめの本を紹介するポップを作成した。先生方のおすすめ本は多彩なジャンルに渡り、興味をもつ生徒が多かった。

(4) 学校図書館司書との連携

①環境整備

- ・読みたい本をすぐに手に取れる工夫
- ・季節やテーマに沿ったコーナーの設置

②授業づくりや朝読書への支援

- ・教科と関連した図書の選定
- ・生徒の関心や求めに応じた選書

3 今後の課題

一人一台端末が全生徒に支給されたことにより、図書館を利用する生徒の減少がみられるようになった。確かな情報を得る手段として、インターネットだけでなく、学校図書館の利活用の効果について、生徒にどのように指導していくかが課題である。

情報を集めるだけで満足することなく、集めた情報が正しいかどうかを見極めて考えることができる生徒、そして考えたことを表現できる生徒の育成を目指して、今後も研究を続けていきたい。